

# 令和 3 年度 事業報告

くるみ保育園 (定員 40名)						
稼働状況			令和 3 年度	令和 2 年度	前年度対比	
	入 所	実績稼働率		112.5%	109.5%	3.0%
		目標稼働率		114.2%	114.2%	—
		差 異		-1.7%	-4.7%	—
	延長保育利用者数			835名	1,664名	-829名
	一 時	実績人数		366名	385名	-19名
		目標人数		300名	300名	—
差 異			66名	85名	—	
重点項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 第 4 期経営 5 年計画 (3 年目) の推進</li> <li>② “保育園のトライアングルを奏でる”保育の実践と検証</li> <li>③ 子どもの健康管理体制の強化</li> <li>④ 防災対策を強化し子どもの命を守る</li> <li>⑤ ネウボラセリジェの活動から未来の子育て世代を支える子育て支援への展開</li> <li>⑥ 安定した保育園運営への取組み</li> <li>⑦ 職員が成長する職場づくり</li> </ul>					
総 括	<p>本年度の事業運営状況は、園児定員 40 名、月平均在籍数 45 名で前年度比は 3.0%増であったが年間稼働率 109.5%であり、予算達成はできなかった。</p> <p>また、一時預かり保育は、年間目標 300 名に対し、年間利用者数 366 名 (月平均 30.5 名) と目標を上回る利用状況であった。</p> <p>なお、延長保育事業も積極的に実施したが、年間利用者数 835 名 (月平均 69.6 名) と昨年度より 829 名減少であった。</p> <p>② “保育園のトライアングルを奏でる”保育の充実と検証</p> <p>本年度もコロナウイルス感染拡大防止のため、その時期の状況に応じた行事の変更があったが、保護者が子どもの成長に不安を持たないように、活動変更の都度、保護者へ説明を行い、理解を得たうえで進めていった。活動の実践については、安全を重視した内容になっていることを保護者にも理解していただき、事業の推進に協力的であった。日々の保育の中では、お迎えの際に保護者へ口頭でその日の子どもの様子を丁寧に伝えることを全員が大切にし、実践したことで、保護者満足度調査でも、保護者が「その日の子どもの様子を保育士から聞いて嬉しい。」「どの先生も子どものことをわかってくれている」等の言葉があり、保護者の安心と満足が得られていることを確認することが出来た。週間保育予定ボードの設置や保育の写真の掲示、日々の保育ファイルの展示等ドキュメンテーションを用いた保育の見える化も行った。引き続き保護者が安心できる関わりを職員と共に考え取組んでいく。</p> <p>また、本年度は「乳児保育のまとめ」をすることを目標に進め、職員の保育知識の向上や職員が保育を主体的に進め、保育にやりがいを感じることで、園全体の保育の質の向上につながるよう進めた。乳児保育園職員として、より知識を高めるために、0・1・2 歳児の子どもの特性や発達段階を各クラスで調べるなどの学びの時間を作り、毎月子どもの発達を確認しながら年齢に応じた必要な遊びを考え、保育の中に取り入れた。その成果を毎月のスタッフ会議で発表し、共有したことで、職員の学びにつながった。年度末には、保育内容検討委員会で、一年間のまとめをし、「乳児保育のまとめ」として形にすることが出来た。次年度もまとめたものを参考にしながら、子どもの遊びや育ちに必要なものを考え実践して、保育の質の向上につなげていく。</p> <p>⑦ 職員が成長する職場作り</p> <p>本年度の施設内研修は「乳児期の子どもの発達を促す遊びの充実」をテーマとし、季節や年齢・月齢に応じた遊びや運動遊びの展開と充実を図り、子どもの発達援助に努めることができた。リズム運動は毎週 1 回継続して行ったことで、本年度も転倒や衝突等の怪我の防止につながり、職員の保育実践の成功事例となり、達成感につながっている。引き続き皆で意見を出し合いながら行っていく。</p>					

令和 3 年度

## 事業報告書

くるみ保育園

### 《基本理念》

- ① 公益的事業の積極的取組み
- ② 人権を擁護する
- ③ 発達支援・自立支援に向けたサービスの確立
- ④ 医療・教育・福祉の連携強化
- ⑤ 地域社会との共生

本年度は、当法人の基本理念に基づき第 4 期経営 5 か年計画の 3 年目として、以下の事業及び保育園 6 園共通の課題に取り組む計画を立ててスタートしたが、令和 2 年からの「新型コロナウイルス」の感染拡大が収まらず、本年度も「緊急事態宣言」の発令や「まん延防止等重点措置」の発令が続き、年度末まで保育活動にも支障が生じた。子どもの健康管理を最優先し保護者とも連携をとりながら子どもたちの成長を支える“遊びと生活”を確保していった。

事業運営状況は、園児定員は 40 名、月平均在籍数は 45 名で前年度比 3.0% の増加であったが、年間稼働率 112.5% であり、予算達成はできなかった。

また、一時預かり保育は、年間目標 300 名に対し、年間利用者数 366 名（月平均 30.5 名）と目標を上回る利用状況であった。

なお、延長保育事業は、年間利用者数 835 名（月平均 69.58 名）で昨年度より 829 名の減少であった。

### 1 第 4 期経営 5 か年計画（3 年目）の推進

本年度は、第 4 期経営 5 か年計画の 3 年目の取り組みを、「新型コロナウイルス」の感染拡大防止に努めながら、出来る限り子どもの育ちに必要な活動が出来るように進めた。地域に向けた子育て支援活動は、昨年度はほぼ中止となったが、本年度は人数制限をするなど、やり方を工夫しながら受け入れ態勢を整えた。

次年度は第 4 期経営 5 か年計画の 4 年目として「地域貢献への積極的展開」「利用者や地域から信頼され選ばれる施設を目指す」「経営基盤の自立に裏付けられた自律経営を目指す」の 3 つを重点項目に掲げ、法人理念の 5 本柱をもとに第 4 期経営 5 か年計画を積極的に推進していく。引き続き、子育て支援活動は園内行事・園外行事とも実施方法を見直し、新たな対策を講じながら進めていく。経営計画の実践状況については経営計画検証委員会において検証していく。

## 2 “保育園のトライアングルを奏でる” 保育の実践と検証

「子ども・保護者・職員の3者 (=トライアングル)」のそれぞれが尊重され、信頼関係のもと、保育園で充実した毎日を送ることができる保育の実践をコロナ禍の元できる限りの活動を行い、より良い保育の充実に努めた。3者への対応は以下のように実践した。

### 1) 子どもの人権を擁護し、子どもの笑顔があふれる保育をおこなう

本年度も一人一人の子どもの思いに寄り添い、その育ち・生活リズム等を尊重し安心して過ごせる関わりを心がけた。また、乳児保育園職員として、乳児期が人格形成において最も大切な時期であり、保育者が重要な人的環境であることを意識し、応答的な関わりを大切に取組んだ。結果、子どもたちは毎日を笑顔で過ごし、安心して自己を発揮し、各年齢に応じた成長が見られた。

### 2) 保護者とともに子どもを育てる楽しさを感じる保育を行う

本年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、その時期の状況に応じた行事の変更があったが、保護者が子どもの成長に不安を持たないように、活動変更の都度、保護者へ説明を行い、理解を得たうえで進めていった。活動の実践については、安全を重視した内容になっていることを保護者にも理解していただだけ、事業の推進に協力的であった。

日々の保育の中では、お迎えの際に保護者へ口頭でその日の子どもの様子を丁寧に伝えることを全職員が大切にし、実践したことで、保護者満足度調査でも、保護者が「その日の子どもの様子を保育士から聞いて嬉しい。」「どの先生も子どものことをわかってくれている」等の言葉があり、保護者の安心と満足が得られていることを確認することが出来た。

週間保育予定ボードの設置、保育の写真の掲示、日々の保育ファイルの展示等ドキュメンテーションを用いた保育の見える化も行った。引き続き保護者が安心できる関わりを職員と共に考え取組んでいく。

### 3) 職員が“保育に携わる喜びを感じる” 保育を実践し、検証することから保育の質の向上を目指す

本年度は「乳児保育のまとめ」をすることを目標に進め、職員の保育知識の向上や職員が保育を主体的に進め、保育にやりがいを感じることで、園全体の保育の質の向上につながるよう進めた。

乳児保育園職員として、より知識を高めるために、0・1・2歳児の子どもの特性や発達段階を各クラスで調べるなどの学びの時間を作り、毎月子どもの発達を確認しながら年齢に応じた必要な遊びを考え、保育の中に取り入れた。その成果を毎月のスタッフ会議で発表し、共有したことで、職員の学びにつながった。年度末には、保育内容検討委員会で、一年間のまとめを行い「乳児保育のまとめ」として形にすることが出来た。次年度もまとめたものを参考にしながら、子どもに必要な遊びや育ちの環境を考え、保育の質の向上につなげていく。

## 3 子どもの健康管理体制の強化

### 1) 子ども一人一人の健康の保持及び増進に取組み、子どもの命を守る。

- ① 子どもの成長を把握する「身体測定」、「各健診」を定期的を実施し、その結果を速やかに保護者と共有し、子どもの健康管理を行っていった。次年度も継続していく。
- ② 緊急事態発生時対応訓練を計画的に実施した。日ごろから、子どもの育ちに関する情報を把握し、それらをもとに発症が考えられる様々な症状“SIDS”や“アナフィラキシーショック”の対応、“大けが”発生対応訓練を次表に沿って実施し、不測の事態に備えた。職員の子どもの命を守る意識にもつながっている。次年度も訓練を行っていく。
- ③ 保健・衛生に関する研修の徹底  
 子どもの体調の異変に気づき、急変時に適切な対応ができるよう、保育園で過ごす子どもの姿を日々、観察した。  
 また、「けんこう保育」を計画的に行い、けんこうな体を作るためにどうしたらいいのかを子どもたちと学ぶ機会を設けたことにより、子どもの意識は深まった。引き続き、小児保健の知識を習得し、職員全員が知識を深めて子どもの体調の急変時に対応できるように取組みたい。

**【緊急事態発生時対応訓練】**

実施日	訓練種類	実施内容
令和3年4月26日	SIDS発生対応訓練	心肺蘇生、AED、消防連絡訓練
5月28日	窒息発生対応訓練	応急手当、消防連絡訓練
6月23日	けいれん発生対応訓練	応急手当、消防連絡訓練
7月21日	大けが発生対応訓練	応急手当、消防連絡訓練
8月19日	SIDS発生対応訓練	心肺蘇生、AED、消防連絡訓練
9月24日	けいれん発生対応訓練	応急手当、消防連絡訓練
10月19日	アナフィラキシー発生対応訓練	心肺蘇生、AED、消防連絡訓練
11月17日	SIDS発生対応訓練	心肺蘇生、AED、消防連絡訓練
12月14日	大けが発生対応訓練	応急手当、消防連絡訓練
令和4年1月27日	けいれん発生対応訓練	応急手当、消防連絡訓練
2月26日	SIDS発生対応訓練	心肺蘇生、AED、消防連絡訓練
3月29日	アナフィラキシー発生対応訓練	心肺蘇生、AED、消防連絡訓練

2) 感染症対策

昨年度発症した“新型コロナウイルス”感染拡大防止対応として、保育園において“新しい生活様式”の取り組みが必要とされることを踏まえ、子どもが過ごす生活環境を衛生面の徹底を中心に整えていくため、保育中の3密を回避した保育計画の作成、施設内(教材・玩具類及び備品含む)の消毒作業の徹底に取り組んだ。

看護員、保健委員が中心となり、子どもの健康管理に関する活動を定期的に行った。コロナウイルス感染予防のために手洗いチェッカーを使用し、手洗いの大切さを再確認した。それらを保護者に伝えたことで、家庭と園とで連携しながら子どもの健康を守ることができ、年間を通して大きく感染症が広がることはなかった

### 3) 感染症発症時の対応

法人の“新型コロナウイルス対応指針”に基づいた対応を行ったことで、感染症の広がりを最小限に留められた。引き続き、在園児・職員、その他関係者との連携を強化し、非常事態発生時の連絡・情報共有が確実にできる仕組みを整える。

## 4 防災対策を強化し、子どもの命を守る

### 1) 防災対策

防災訓練では、毎月の消火避難訓練に加え、地震の最終避難場所の名和小学校、火災の最終避難場所の尼崎さくら保育園まで避難する訓練を経路の確認しながら行った。本年度は「災害時伝言ダイヤル」の練習を全職員が行い、災害時に適切に対応できるように確認した。次年度は保護者とともにとこどもの安全確保の体制を万全にしていく。

### 2) 施設内外の安全管理対策の強化

施設内外の設備や備品・遊具・玩具等の安全性には常に留意し、毎月「安全点検」を行い、安全管理に努めた。また、今後も施設や備品の不具合や老朽化などの対応は必要に応じて専門業者に相談し、速やかに対応していく。

#### 【消火・避難訓練】

実施日	訓練種類	実施内容
令和3年 4月16日	集 合	平日午前（園児 35 名、職員 17 名） 「非常ベルの音を知り保育士の指示に従う」ことを伝えた。
5月21日	火災 (消火・通報)	平日午前（園児 36 名、職員 17 名） 避難滑り台を使用し、園庭西側に避難した。
6月18日	火災 (消火・通報)	平日午前（園児 38 名、職員 16 名） 2階調理室より出火、避難滑り台を使用、園庭に避難した。
7月6日	火災（消火・通報） 消防署との合同訓練	平日午前（園児 38 名、職員 16 名）、 調理室より出火、避難滑り台を使用、園庭に避難した。 水消火器を使用。（尼崎北消防署消防士 3 名の指導）
8月19日	風水害	平日午前（園児 39 名、職員 17 名） 風水害により 2 階に避難した。
27日	火災 (消火・通報)	平日午前（園児 39 名、職員 16 名） 民家より出火、階段を使用し、玄関外に避難した。
9月22日	火災 (消火・通報)	平日午前（園児 39 名、職員 16 名） 民家より出火、階段を使用し、玄関外に避難した。
10月9日	少人数訓練 火災（消火・通報）	土曜日午前（園児 12 名、職員 6 名） 民家より出火、階段を使用し、玄関外に避難した。
23日	少人数訓練 火災（消火・通報）	土曜日午前（園児 11 名、職員 5 名） 民家より出火、階段を使用し、玄関外に避難した。

11月18日	不審者対応	平日午前（園児18名、職員5名） 散歩中に不審者を見つけ、保育士の指示に従い避難した。
19日	地震・津波	平日午前（園児39名、職員17名） 地震後の避難方法を知る。2歳児は津波に備えて3階に避難した。
29日	延長保育時 火災（消火・通報）	平日午前（園児38名、職員16名） 民家より出火、階段を使用し、玄関外に避難した。
12月17日	火災 （消火・通報）	平日午前（園児40名、職員16名） 民家より出火、階段を使用し、玄関外に避難した。
令和4年 1月21日	地震（名和小学校前）	平日午前（園児39名、職員16名） 地震後、名和小学校まで避難した。
28日	火災 （消火・通報）	平日午前（園児38名、職員18名） 民家より出火、階段を使用し、玄関外に避難した。
2月25日	火災 （消火・通報）	平日午前（園児43名、職員17名） 民家より出火、階段を使用し、玄関外に避難。
3月29日	火災（消火・通報） 尼崎さくら保育園避難	平日午前（園児40名、職員18名） 民家より出火、階段を使用し、玄関外に避難した。その後、尼崎さくら保育園に避難した。

## 5 「ネウボラ・セリジェ」の活動から未来の子育て世代を支える子育て支援への展開

### 1) 保育園運営力を活かした子育て支援活動の推進

#### ① 「ネウボラ・セリジェ」の積極的展開

本年度も引き続き「新型コロナウイルス感染症対策」が必要となることを想定し、地域に向けた子育て支援活動は、昨年度はほぼ中止となったが、本年度は人数制限をするなど、やり方を工夫しながら、コロナ禍ではあるが、地域の親子の支援に努めた。

#### ② 「育児に関する情報の発信」を工夫して行う

コロナ禍ではあるが、6園共通の活動「ネウボラ・セリジェ」に積極的に取り組むことを大切に考え、新型コロナウイルス感染予防対策を徹底しながら、地域に向けた育児相談や成長測定、ベビーマッサージなどの開催を開始した。手作り玩具キットの配布や子育て情報チラシの配布等、子育て支援活動実施のお知らせを園前や子育てプラザ・役所にチラシを置き知らせた。次年度も状況が継続することが予想されるので、子育て世代の生活スタイルやニーズを探り、地域の子育て世代に発信する手段を考え、保育園が地域の子育て支援の拠点であることを伝えていく。

### 2) 「子どもを地域で育てる仕組みづくり」を行う

本年度は、一時預かり保育の利用者のニーズに応えられるように積極的に受け入れた。次年度も積極的に地域の方のニーズに応じていきたい。

## 6 安定した保育園運営への取組み

### 1) 園児の確保に取り組む

安定した保育園運営を継続させるために、予算稼働率 114.2%の達成へ向け、入所園児の確保の他、一時預かり・延長保育の各事業に取り組んだ。今後も「新型コロナウイルス感染拡大対策」下の保育となることは予想されることから、保育園の地域における存在価値を示せる事業を提示していく必要がある。特に、園児確保は少子化時代の現代の状況を踏まえ、重要課題として次年度も引き続き取り組んでいく。

少子化や乳児保育園のデメリットについての対応策を講じ、乳児保育園のメリット活かしていけるように、常に社会情勢や地域ニーズを探り取組んだが、次年度はより計画的に進める。

### 2) 「子どもを地域で育てる仕組みづくり」を行う

「高齢者レストラン」への訪問や地域の「餅つき大会」等はコロナの為今年度も中止となったが、今後も地域の協力を得ながら、子どもの育ちをともに支えていく。

### 3) 「地域に必要な社会福祉活動」の取組み

毎年行っている地域の消防団立ち合いによる消火避難訓練は中止となったが、尼崎北消防署の立ち合いによる消火避難訓練、尼崎市交通安全課による交通安全教室、尼崎北警察署による不審者対応訓練は行うことが出来、学びにつながった。今後も地域の力を借りながら子どもの育ちを共に支えていく。

園児と職員で近隣の公園や園周辺の清掃を行った。保育園ができることを考え、地域に奉仕することで、地域に認められる施設となるように取り組んでいく。

## 7 職員が成長する職場づくり

### 1) 法人基本理念の周知・徹底

毎月のスタッフ会議の中で、基本理念に沿った各クラスの年齢に応じた関わりや取組みが出来ているかを検証し、専門職としての意識を高めた。

### 2) 職員のやりがいがある職場環境づくりに努める

- ・ 階層別の会議をリモート会議も取り入れながら進めることが出来た。引き続き取組み、6園の現状を共有することで、改善につなげ、職員が働きやすく、やりがいを持って成長できるような職場作りに努める。
- ・ 新人職員研修の「チューター制」では、新人育成で苦戦するチューターを周りの職員がサポートしたことで、チューターの成長も見られ、新人育成につながった。

### 3) 保育所保育指針に基づく職員の資質向上の推進

- ・ 「担任会議」や「学び合い研修」などの6園合同の会議や研修はリモートで行い、各職員の学びにつながった。
- ・ 階層別会議もリモートで行い、本年度の各保育園の現状を共有し、保育の質の向上について具体的な実践方法について話し合った。

- 施設内研修は「乳児期の子どもの発達を促す遊びの充実」を目標に掲げ、季節や年齢・月齢に応じた遊びやうんどう遊びの展開と充実を図り、子どもの発達援助に努めることができた。リズム運動は毎週1回継続して行ったことで、本年度も転倒や衝突等の怪我の防止につながり、職員の保育実践の成功事例となり、達成感につながっている。

【学び合い研修】

実施日	研修内容	講師
令和3年7月14日	ピアノ	太田主幹保育教諭
21日	生き物飼育	先東副主任・加藤保育士
28日	おりがみ	田中保育教諭
8月3日	リトミック	東谷主任保育士
6日	わらべうた・手遊び	矢野主任・小林保育士
20日	アンガーマネジメント	羽柴保育教諭
28日	離乳食・小児保健	中野厨房主任・久岡看護主任

4) 園内委員会

委員会の目的を理解して、積極的に取組む姿が見られた。今後も委員会業務の目的に沿って見直しも行いながら進める。「保育園職員委員会」では、保育園職員としてあるべき姿を確認しながら、今年度も毎月の委員会で課題点を挙げ、スタッフ会議で提案することで、改善に向け取組むことが出来た。次年度も継続する。

5) 人事考課制度の効果的運用

業務に対する自己評価及び評価者との面接等を通して自己の業務についての分析、目的意識の明確化を図り、向上心を培う一助であることを理解し、考課者は、信頼関係の構築から始め、キャリアパスおよび職員一人一人の資質を捉えた職員育成を行った。

8 新型コロナウイルス感染予防対策

新型コロナウイルス感染予防対策として、園児の健康管理（検温、手洗いの励行）、職員の健康管理（健康チェック表で出勤時、昼休憩時の体温、体調変化の状況を管理）、来訪者の健康チェック（検温・消毒）、常時換気に努めた。

【新型コロナ陽性者発生時の対応状況】

① 令和3年3月3日（木）

28日（月）夜に発熱した1歳児がコロナ陽性と診断されたと連絡が入る。10日までの自宅待機。保育管理課へ陽性の園児の行動履歴を送り、聞き取り調査の結果、濃厚接触者5名（0歳児1名、1歳児4名）となる。26日（土）に接触した3名は3月5日まで、28日（月）に接触した2名は7日までが自宅待機となる。個々に連絡を入れ、迎えに来てもらう。保護者によりこネットで園児1名がコロナ陽性、濃厚接触者に該当する人には個別で対応をしていると連絡を送る。

0歳児保育室、2階保育室、館内の消毒の徹底、カーテン、布団のシーツ等の洗濯を行う。

② 令和3年3月4日（金）



3日(木)の朝37.9度の発熱でPCR検査を受けた1歳児がコロナ陽性だったと連絡が入る。14日まで自宅待機。保育管理課に陽性の児童の行動履歴を送る。濃厚接触者は5名(1歳児5名中2名は昨日の濃厚接触者)。1日に接触した3名は8日まで、2日に接触した2名は9日まで自宅待機となる。よいこネットで知らせる。

昨日同様消毒作業を行う。

③ 令和3年3月7日(月)

コロナ陽性者2名以外、熱の子どもの報告なし。(玄関掲示をする)・パート保育士のお子さんがコロナ陽性となり、濃厚接触者になるため、7日間(13日まで)自宅待機となる。

④ 令和3年3月9日(水)

パート保育士1名本日のどの痛みで休んでいたが、夕方コロナ陽性だったと連絡が入る。保育管理課に行動履歴を送る。10日朝、濃厚接触者なしと連絡はいる。館内消毒の徹底、換気、玩具の消毒等引き続き行う。

⑤ 令和3年3月11日(金)

濃厚接触者で休んでいたパート保育士が陽性になったと連絡はいる。17日まで自宅待機。

パート保育士1名昨日発熱の為PCR検査を受ける。本日は休み。・発熱で休みの2歳児PCR検査を受ける(14日陰性連絡あり)

⑥ 令和3年3月14日(月)

一昨日発熱のパート保育士1名陽性だった。濃厚接触者はなし。20日まで自宅待機。2歳児園児父が陽性で21日まで自宅待機。

⑦ 令和3年3月19日(土)

職員が一昨日鼻水とどの違和感で受診、花粉症との診断で帰宅するが発熱した為18日休んで再受診。コロナ陽性と診断された。保育管理課に連絡。濃厚接触者はなし。

⑧ 令和3年3月22日(火)

2歳児、父母陽性でみなし陽性となる。園児1名濃厚接触者でお迎えを要請する。

⑨ 令和3年3月25日

1歳児1名昨日は家族の発熱で休んでいたが本日本人の陽性が分かった。23日登園していたので、保育管理課に行動履歴を送る。濃厚接触者は3名で30日まで自宅待機。